

**( 1 ) 地域の課題 \*****中心市街地の求心性の回復**

- ・アクセス、回遊性の向上などにより、中心市街地の求心性を回復することが必要です。

**中心市街地と沼館地区との機能分担と連携**

- ・中心市街地と沼館地区は、近接性を活かして、互いに連携しながらそれぞれの特色を活かす機能分担を図る必要があります。

**産業構造の転換動向を視野に入れた土地利用の検討**

- ・沼館地区には低・未利用地が散在しています。今後の産業動向をにらみながら、土地利用の転換についても検討していくことが必要です。

**小中野、吹上、中居林地区などにおける居住環境の改善**

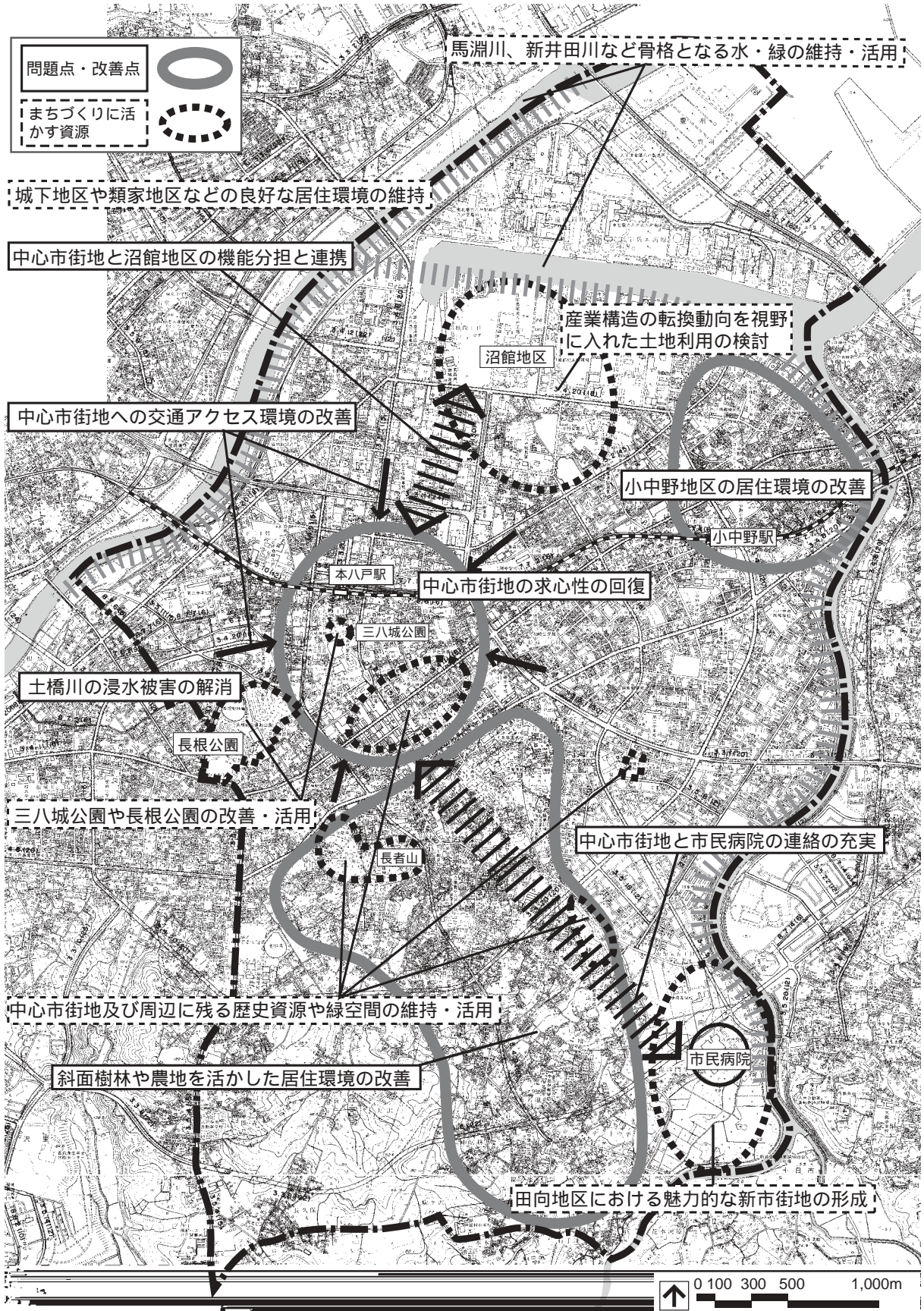
- ・小中野、吹上、中居林地区では、防災上問題がある狭い道路や下水道などの都市基盤の不足を改善していくことが必要です。

**土橋川の氾濫による売市地区の浸水被害の解消**

- ・過去に浸水被害をもたらした土橋川の氾濫を防止することが必要です。



# 課題図



## ( 2 ) まちづくりの目標

### 1 ) 地域のめざすべき方向

**八戸市と周辺に住む人々の活動の中心となり、八戸都市圏の活力を維持、創造するまちをめざす**

- ・八戸市と周辺市町村に住む人々にとって、働く、買う、遊ぶ、集まるといったさまざまな活動の中心となるとともに、地域での活動が八戸都市圏の活力を維持、創造するまちをめざします。

**充実した既存の機能、サービスを活用して、活気にあふれた仕事、くらしが展開されるまちをめざす**

- ・既存の機能集積を活かし、多様な交流活動の場、高次のサービスを受けられる場、安全で便利にくらすことのできる場などの形成を通じて、活気にあふれるまちの実現をめざします。

**だれもが訪れやすく快適に移動できる、交通環境が整ったまちをめざす**

- ・道路や歩行者空間の整備、適切な交通誘導など交通環境を整えることにより、市内や都市圏からだれもが訪れやすく、安全、快適に回遊できるまちをめざします。

### 2 ) 将来像

**八戸市の活力を創造しつづける、躍動するまち**

中央地域は、これまで八戸市や周辺市町村の中心としての役割を担ってきました。これからも商業、業務、エンターテイメント\*、医療、スポーツ、文化、交流などのさまざまな機能を充実させ、広域的拠点として躍動しつづけるまちづくりをすすめます。

また、三社大祭やえんぶりなどの祭や地域の歴史資源を大切にしながら、魅力を発信するまちをつくります。



### ( 3 ) まちづくりの方針

ここでは、主に中心市街地を除いた部分についてのまちづくりの方針を示します。なお、中心市街地に関する方針は「( 4 ) 中心市街地のまちづくりの方針」で示します。

#### 1 ) 土地利用・市街地整備の方針

- ・沼館地区では、前面の第一工業港を水辺空間として活用しながら、商業・エンターテイメント機能の充実を図るとともに、中心市街地と連携し補完しあう拠点の形成を図ります。中心市街地では専門特化型商業\*、飲食機能を、沼館地区では大規模商業、エンターテイメント機能を主に分担します。
- ・田向地区では、市民病院を核として、新井田川などの周辺環境を活かしながら、健康・医療の広域拠点の形成をめざします。
- ・小中野、江陽、函南、中居林地区などでは、既存の公民館や商業施設が立地する場所を中心として生活サービス拠点の形成を図ります。
- ・ポートアイランドでは、用地の埋立拡張、F A Z \*関連施設、貿易支援機能の整備、輸入品の見本市、展示商談会の開催をすすめ、国際貿易・物流拠点の形成を図るとともに、多くの人々が気軽に利用できる空間形成につとめます。
- ・都市基盤の整備されている城下、類家地区などでは、緑化の推進、歩道など公共空間のバリアフリー化、緑豊かな落ち着いた街並みの誘導などにより居住環境の一層の向上を図ります。
- ・都市基盤の未整備な小中野、吹上地区などでは、生活道路、下水道、身近な公園・広場などの整備をすすめ、居住環境の向上を図ります。
- ・糠塚、中居林地区などの住宅地では、周辺に残る樹林地、農地と調和した居住環境の維持・向上につとめます。



## 2) 道路・交通体系整備の方針

---

- ・ 中心市街地と沼館地区、市民病院周辺とは、循環バスなど身近で利用しやすい交通手段の導入を考えます。
- ・ 市内から中心市街地へアクセス\*しやすいバスサービスの充実を図るとともに、中心市街地のバス停では、わかりやすい案内表示の充実を図ります。

## 3) 公園緑地・水辺環境整備の方針

---

- ・ 長者山周辺の緑は、中央地域に残る貴重な緑地空間として維持・保全につとめます。
- ・ 馬淵川、新井田川、第一工業港などを活用し、水辺の親水空間や散策路、海上ネットワークの整備をすすめます。
- ・ 馬淵川右岸の水辺の楽校\*<sup>がっこう</sup>を生活うるおい拠点として位置づけ、地域住民が水辺と親しむ憩いの場、生態系や環境についての学習の場として活用します。

## 4) 歴史文化、芸術に関するまちづくりの方針

---

- ・ 三社大祭やえんぶり、七夕などの祭、片町朝市、三八城公園（八戸城跡）や八戸城角御殿表門などの南部藩の城下町に由来する豊富な歴史資源を活かして、訪れる人や市民が歴史文化を実感できるまちづくりを行います。
- ・ 美術館、八戸芸術パーク、公会堂などの芸術文化施設と豊かな歴史文化が相互に連携、共鳴し合うことにより、新たな文化を発信するまちとしていきます。
- ・ 歴史文化施設や芸術文化施設に多くの人を訪れる地域として、わかりやすいまちの案内表示やモデルコースの設定など来訪者に対するホスピタリティ\*を高めていきます。



## 5) 災害に強い地域づくりの方針

---

- ・吹上、中居林、売市地区などの浸水対策のため、排水施設の整備を促進します。
- ・小中野地区などの家屋が密集し生活道路が狭い地区では、まちづくり協定などの活用により、沿道の建て替えと連携して道路の拡幅を誘導し、火災などの災害に対して安全な地域の実現を図ります。

## 6) 景観形成の方針

---

- ・商店街では、電線の地中化、建物や広告物のデザイン、カラー舗装、植栽緑化、夜景の演出などをすすめ、市内、周辺市町村から人が集まる拠点としてふさわしい街並みの形成を図ります。
- ・沼館地区では、水辺、緑、商業・エンターテインメントのにぎわいなどが調和した景観の形成をすすめるとともに、敷地内の植栽緑化を誘導します。



# 中央地域の構想図

